

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20年 8月 5日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 虹の丘 (鹿児島県)
-------------------	-----------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 藤田泰洋 氏名 腰 高行
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 坂山和代 ヒアリングを行った職員数 2名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670700493号		
法人名	社団法人大島郡医師会		
事業所名	グループホーム 虹の丘		
所在地	鹿児島県奄美市名瀬知名瀬2229番地 (電話) 0997-54-8823		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成20年8月5日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(20年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	1人	要介護2	4人			
要介護3	4人	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	87.7歳	最低	78歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大島郡医師会病院、登山歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、奄美市の郊外の集落に立地し、地域との交流が自然にできる環境の中にある。郡医師会設立のグループホームであり、医療連携等医療・福祉面でのバックアップが充実している。医師会役員である施設長は日常の明るい会話を通して、入居者の健康管理をしている。職員は入居者と「毎日、新鮮な会話や笑いがあり、安心できる雰囲気作り」を心がけている。利用者は、敬老会や忘年会などの地域行事に参加したり、地域で行う健康増進の「生き生き体操」にも参加するなどホーム内外での活動支援がなされている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示がなされ、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と一部職員によって取り組み、全職員への広がりを見るには至らなかった。評価を通しての具体的な取り組みはこれからという段階である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や家族代表・地域代表などの参加のもとに、地域の保育所との交流・敬老会への参加・介護支援のあり方など出された意見要望をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会総会時など、気軽に意見を言える雰囲気を作っている。出された意見や相談内容を運営に反映し、サービスの質の向上に活かす支援がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	敬老会や忘年会などの地域行事に参加したり、地域で行う健康増進の「生き生き体操」にも参加している。地域の子どもたちから「虹の丘のオバチャン・オジチャン」といって親しまれている。地域の人が野菜作りの支援に来る。地域清掃活動に職員が参加し交流連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を「地域の方々のつながりを大切にし、笑顔でその人らしく生活できるように」と設定し、地域の中での支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出勤時に理念を確認して仕事に入るように、タイムカード機の近くに貼り出している。また、職員会議や学習会のときにも、お互いに確認し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や忘年会などの地域行事に参加したり、地域で行う健康増進の「生き生き体操」にも参加している。地域の子どもたちから「虹の丘のオバチャン・オジチャン」といって親しまれている。地域の人が野菜作りの支援に来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と一部職員によって取り組み、全職員への広がりを見るには至らなかった。評価を通しての具体的な取り組みはこれからという段階である。	○	管理者・職員で評価の意義を理解し、日ごろから自己評価・外部評価を活用する取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域代表・家族代表などの参加のもとに、地域の保育所との交流・敬老会への参加・介護支援のあり方など出された意見や要望をサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の現状と家族の認識が異なるときの専門医療機関活用の支援についてなど、行政との連携を密にしながら、より良い支援に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や生活ぶりは、面会時や電話や「グループホーム虹の丘便り」などで伝えている。また、金銭管理は小遣い帳をつけて、年度末に報告している。職員の異動は面会時やクリスマス会など催しのときに伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会総会時など、気軽に意見を言える雰囲気を作っている。「入れ歯が合わない」「ミキサー食にして」等相談内容に沿って支援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動については、法人の方で馴染みの関係になるように固定している。職員が辞めたくないような職場作りの配慮をしている。新規採用者には馴れるまで管理者が付き添って支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束・感染症防止など年間計画に基き研修している。法人内研修や関係機関の研修などにも参加し、報告の研修もしている。段階に応じた専門研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、同業者と連携・触発しあっている。また、本年より地域のグループホーム間で職員の交流研修も始めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学などの交流を図り、馴染みながらサービス利用に移行できるよう支援している。ホームからも入居希望者の居所を訪ねて人間関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	油ソーメンなどの郷土料理の作り方や野菜作り・生活の知恵など教えてもらったりしながら共に支えあっている。作業の中で失敗や成功に笑いや喜びを共にしながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、意向や思いを汲み取るようにしている。言葉による表現が困難な人には、しぐさや行動、家族から聞き出したりして把握して本人中心の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング、1週間毎の評価などを基礎資料にして、本人・家族・担当職員など参加した担当者会議で利用者本位のプラン作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施状況や本人・家族の意向を踏まえて、期間に応じた見直しをしている。状況の変化時には関係者の思いを反映した計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携を採っている。美容室の利用や自宅訪問など特別な外出支援、通院支援なども柔軟に実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医での受診を支援している。かかりつけ医を指定していない場合は家族に相談して医師会病院を利用している。家族も同行しての受診支援もしている。受診結果については家族と情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を採っているために重度化の指針を作り、家族にも説明している。感染症など特別な医療支援を要しない場合は、家族の意向を受けて終末まで看取る方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については、職員行動基準を定めて、実践するようにしている。日々の支援の中では、入浴・排泄・食事・整容など誇りやプライバシーに配慮してさりげなく行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日々の基本的な流れはあるが、起床や就寝時間および食事時間など、本人の状況や希望に沿って個々のペースで支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに、自分でできることで参加したり、後片付けの役割を持ったりしながら、職員と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には決まっているが、本人の希望に沿って支援している。シャワー浴の希望や、お湯の温度など本人の意向を受けて対応している。浴室では会話や歌が弾む人もある。同性介護希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備・後片付けなど日常の生活の中で役割を担ったり、島唄・カラオケ・踊り・ドライブなどの楽しみごとを取り入れて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2~3人ずつで近隣へ散歩することを日課として行っている。お茶受けの黒砂糖などを買いに出かけたり、ドライブなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外出傾向の強い方には適宜に散歩を一緒にするなどの支援をして、鍵をかけないケアをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・防災マニュアルに沿って、消防署の協力を得て避難訓練をしている。火災自動通報装置も設置し、体制を整えている。地域からの参加申し出もある。非常時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の助言を受けながら、栄養バランス・摂取量、水分摂取など記録をとり、確保できるように支援している。個々の状態に即した気配りのある食事作りをしている。嗜好調査もして、メニューに反映している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした造りで、玄関・廊下・食堂（リビング）など生活感・季節感があり、家庭的雰囲気作りの工夫がしてある。採光・換気にも気配りがなされ、適当な音量の音楽が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にそれぞれの工夫がしてあり、ぬいぐるみや家族の写真、ラジオ・CDラジカセなど好みのものを持ち込み居心地よい生活の場作りがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。